

# PEPTIDREAM REPORT

2019.7.1 — 2019.12.31



PeptiDream

## 2020年の大きな飛躍に向けて 着実な歩み

2019年12月期の業績は、決算期変更に伴って6カ月分のみの変則決算であったことや臨床開発試験の前倒しに伴う一時的な研究開発費の増加のために赤字決算となりましたが、売上高、利益ともに当初の業績予想通りの着地となり、事業の進捗は順調でした。

現在、当社では100を超える研究開発プログラムが進行しています。今後は、当社がより開発戦略に関与できる自社・戦略アライアンスプログラムの臨床開発入りを積極的に加速していくことに加えて、特殊ペプチドの受託製造会社であるペプチスターが昨年10月に計画通り本格稼働を開始したことで、パートナー先とのプログラムについても開発スピードの加速を期待しています。また、PDC医薬品においても特殊ペプチドの優位性に関するデータの蓄積が進展しており、様々な疾患領域においてさらなるプログラム拡大を期待しています。医薬品における第3のカテゴリーといえる特殊ペプチド創薬のリーディングカンパニーとして、研究開発能力の向上を着実に進めており、より多くのプログラムを早いスピードで進捗させることができるようになってきています。

2020年12月期の業績予想については、2019年8月に公表した内容から変更はありません。売上高は100億円の大台乗せ、利益も過去最高益更新を予想しています。

2020年は、これまで積み上げてきたものが成果として目に見えるようになる、とても楽しみな1年になるものと期待しています。株主の皆さまには、今後さらに加速していく当社の新たな成長を見守りいただき、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

リード・パトリック



# News & Topics

## 1 米国メルク社との創薬共同研究開発プログラムのすべてにおいてヒット化合物を特定

2019年11月、米国メルク社との間で、2015年4月に開始した創薬共同研究開発において、6つ目のプログラムが、あらかじめ設定していたクライテリアを達成し、目標達成報奨金（マイルストーンフィー）を受領しました。これにより両社で進めてきた6つのプログラムすべてにおいてヒット化合物が見出されたこととなります。また、うち1つは、既にリード候補化合物として開発が進捗しております。

## 2 ゲイツ財団から新規結核治療薬の開発に関する新たな研究支援金を受領

2019年11月、ビル&メリンダ・ゲイツ財団から結核に対する新規治療薬に関して第2回目の研究支援金を受領することを発表しました。当社は2017年11月に初回の研究支援金を受領しており、今回の研究支援金はその研究開発で見出された結核治療薬として最も有望なヒット化合物を、前臨床試験を視野に入れて最適化を行い、リード化合物として開発することに充当されます。

## 3 富士通と「デジタルアニーラ」を活用し中分子創薬に関する共同研究を開始

2019年9月、富士通株式会社との間で、中分子（ペプチド）創薬分野において、共同開発を前提とした共同研究を開始することに合意しました。富士通の次世代アーキテクチャー「デジタルアニーラ」を活用した独自の高速コンピューティング技術と、当社が有する特殊ペプチドに関する先進的な知見や豊富な実験データを組み合わせることで、創薬プロセスにおける候補化合物探索の高効率化と高速化を目指します。

## 4 JSRとアフィニティクロマトグラフィーに適用可能な特殊ペプチドに関する共同研究を開始

2019年9月、JSR株式会社との間で、抗体医薬品などのバイオ医薬品の精製過程で用いられるアフィニティクロマトグラフィーに適用可能な特殊ペプチドの共同研究を開始することを合意しました。当社のPDPSから得られる多種多様な特殊ペプチドは、創薬に限らず、様々な分野で事業化が可能と考えています。バイオ医薬品の製造分野で市場ニーズの高い精製工程の簡便化、低コスト化を目指します。

## 5 ペプチスター株式会社が特殊ペプチド原薬の安定的な供給体制の基盤構築を達成

2019年12月、当社関連会社であるペプチスター株式会社が2017年10月に国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)と委託環境整備契約を締結した医療研究開発革新基盤創成事業 (CiCLE)における課題「特殊ペプチド原薬CMO創設」において、計画通り特殊ペプチド原薬の安定的な供給体制の基盤構築を達成したことを発表しました。

## 6 起業家表彰制度「EOY 2019 Japan」で当社創業者が日本代表に選出

2019年11月、起業家(アントレプレナー)の努力と功績をたたえる国際的な表彰制度であるEOY (EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー)の日本大会で当社創業者2名：窪田規一(現・取締役会長)と菅裕明(東京大学教授)が日本代表に選出され、2020年6月にモナコで開催される各国代表による世界大会に出場することになりました。

## 2020年12月期の業績予想

売上高	100億円以上
営業利益	53億円以上
経常利益	54億円以上
当期純利益	40億円以上

## 創薬アプローチごとのプログラム数

創薬アプローチ	2019年 12月末
特殊ペプチド医薬品	70
低分子医薬品	
ペプチド薬物複合体(PDC医薬品)	37
計	107

## 研究開発ステージごとのプログラム数の推移

ステージ	2018年 6月末	2018年 12月末	2019年 6月末	2019年 12月末
進行プログラム数	84	94	101	107
ターゲット検証 ～ヒット化合物	36	42	45	43
リード化合物 (Hit-to-Lead Stage)	34	36	39	43
前臨床試験 対応化合物	8	10	10	11
臨床候補化合物 (Clinical candidates)	4	4	5	8
臨床試験 第1相 (フェーズ1)	2	2	2	2
臨床試験 第2相 (フェーズ2)	0	0	0	0
臨床試験 第3相 (フェーズ3)	0	0	0	0

(注)上記プログラム数は、PDPSの非独占的技術ライセンス先でのプログラムを含んでおりません。

## 決算ハイライト

FINANCIAL HIGHLIGHTS

売上高 1,037 百万円

営業利益  $\triangle$ 887 百万円

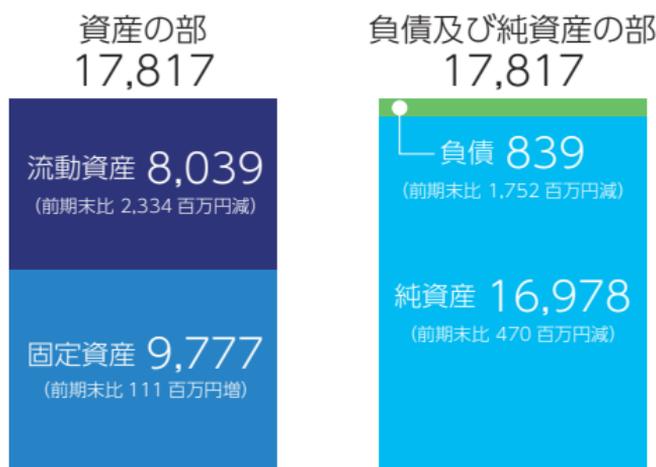
経常利益  $\triangle$ 706 百万円

当期純利益  $\triangle$ 488 百万円

## 資産の状況

(単位：百万円)

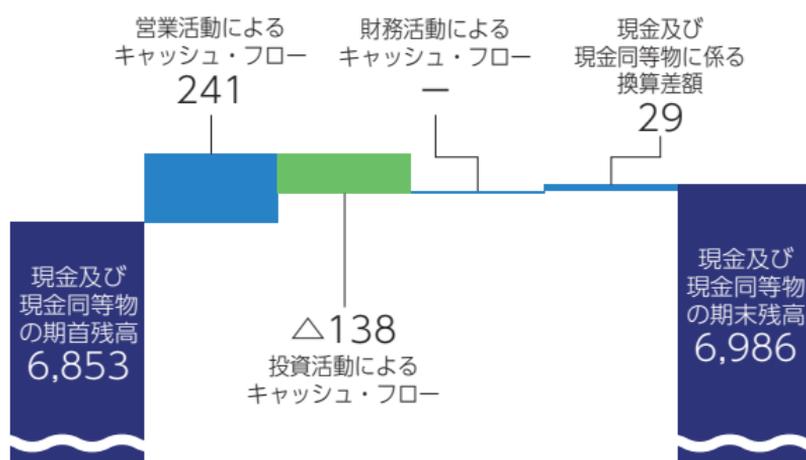
(2019年12月31日現在)



## キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

(2019年7月1日から2019年12月31日まで)



IRに関する最新情報や詳細な情報につきましては当社のウェブサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。

<https://www.peptidream.com/ir/>



## 会社概要 / 株式の状況

### 会社の概要 (2019年12月31日現在)

設立	2006年7月	沿革	
資本金	3,930,541,375円	2013年6月	東証マザーズに上場
事業内容	創薬研究開発業	2015年12月	東証一部に市場変更
従業員	123名	2017年7月	本社・研究所を東京都目黒区から神奈川県川崎市に移転
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23		

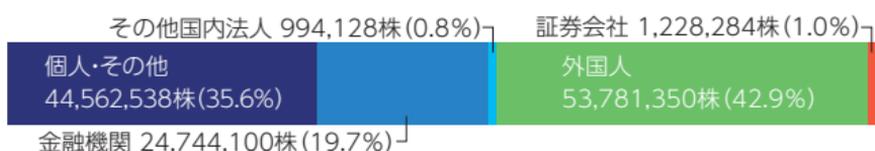
### 役員 の 状況 (2020年3月27日現在)

取締役会長	窪田 規一	社外取締役 (監査等委員)	笹岡 三千雄
代表取締役社長	リード・パトリック	社外取締役 (監査等委員)	長江 敏男
取締役副社長	舩屋 圭一	社外取締役 (監査等委員)	花房 幸範
取締役副社長	金城 聖文		

### 株式の状況 (2019年12月31日現在)

発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	125,310,400株
株主数	17,843名

### 所有者別株式分布



### 株主メモ

事業年度	1月1日から翌年12月31日まで ※ 決算期変更の経過期間となる第14期は、2019年7月1日から2019年12月31日までの6ヶ月決算となります。
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3か月以内
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当を行う場合 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内 1丁目4番1号 取次所：三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 <a href="https://www.peptidream.com/">https://www.peptidream.com/</a>

## ペプチドリーム株式会社

〒210-0821  
神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23  
TEL (IR広報) 044-223-6612  
<https://www.peptidream.com/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。  
環境に配慮した植物油インキを使用しています。